

非実在 ~Airmys~ 探偵小説研究会

エアミステリ

拾

號



エアミステリ研究会

非実在探偵小説研究会10号 目次

企画

企画1 お題競作「倒叙ミステリ」

館は二度と動かない

死体

殺意の構図の裏の裏

疾走当時の服装は

雷恐怖症

オーバーライト

刑事コロンボ vs 古畑任三郎

企画2 ミステリ映画・オールタイムベストアンケート結果発表 松井和翠

企画3 ショート・ショート……………254

読み切り短編

「帝王の筐」

殺人犯にならないために 毒殺編

その他

〈評論〉二〇一五年上半期キャラノベミステリ概況

大阪圭吉賞受賞作全集

闇来留潔……………6

紫藤はるか……………42

麻里邑圭人……………55

光田寿……………73

佐倉丸春……………93

岡村美樹男……………109

闇来留潔……………136

結果発表……………156

松井和翠……………156

方功鉄文……………175

谷山儀式……………196

ないと……………233

松井和翠……………190

表紙・扉ページ・本文図(一部)

ウスタアヤ

巻頭ポスター

オーバーライト

岡村美樹男

九月二十九日(火)

12・眠りに入る子ども

体ごとぶつかっていったのが功を奏したのだろう。

登山ナイフはやすやすと理浦恵三りうらけいぞうの堅い腹に突き刺さ

った。

「ぐ、お、あ」

仇敵がうめき声をあげるのにも構わず、ナイフをねじ

り込む。

カランと乾いた音がしたのは、彼が握りしめていたモンキーレンチが床に落ちた音だろう。

ぼくはだから素早くナイフから手を離し、モンキーレンチを拾いあげた。

「抜くと死ぬよ」

理浦が腹に刺さったナイフの柄に手を掛けたのを見て、ぼくはぼそりと呟いた。逆襲されるのはごめんだ。返り血だつて、なるべくなら浴びたくはない。

「抜かなくても死ぬけどね」

ナイフを握りしめたまま突っ立っているだけの理浦の頭部に拾いあげたモンキーレンチを叩きつける。六度、七度、八度。理浦がうつぶせに倒れた後も、繰り返し殴った。糸川志紀いとかわしきの身体を弄んだ男だ。容赦をする気はさらさらなかった。

やがて理浦はびくりとも動かなくなった。

静けさに包まれた小校舎の廃教室で、ぼくは今に至るまでの道筋について思いをはせる。後悔などあるはずがない。一つ心残りがあるとすれば、ここからではいくら耳を澄ませたとところで、かすかにしかピアノの旋律を聴くことができないということだけだった。

1. 異国から

今日もまた音楽室からピアノの旋律が聞こえてくる。

ぼくは半田^{いかるみ}ごてを持つ手を止めて耳を澄ます。伝統ある五十海東高校電子工作部が“火災のおそれがある器具の使用”を理由に部室棟を追い出され、第一校舎屋上の旧天文部室に移って来たのはぼくが高校に入学する少し前のこと。当時を知る卒業生は口をそろえて学校側の横暴だと主張していたが、おかげで津島雅先輩のピアノ演奏を毎日でも聴くことができるのだから、ぼくにとつてはありがたい話だった。

子供の情景——作曲家ロベルト・シューマンが、後に彼の妻となるクララ・ヴィークから『あなたは時々子どもみたいなどころがある』と言われたことをきっかけに作ったとされる全十三曲からなるピアノ曲集。

津島先輩は秋に開催されるコンクールに向けて、電工部室の真下に位置する音楽室で、毎日この曲集の練習に取り組んでいる。課題曲となつてゐるのは第七曲のトロイメライだけだと言うが、始めと終わりに一、二回ずつ、

通して弾くというのが先輩のいつものやり方だった。

——最初から好きだったわけじゃないからね。ひとつひとつ、確かめながら進みたいんだ。

シンプルだけどこか幻想的な第一曲が終わり、より明るくリズムカルな曲調の第二曲が始まった。このまま聴き入っているのも悪くないとは思うけれど、ぼくにはぼくの居場所がある。何より放課後という時間はいつだって、望むほどには長くないのだ。

窓から顔を出して、深呼吸をする。振り返れば、工作机の上で未完成のユニバーサル基板がぼくの帰還を待っていた。

いつの間にかピアノの音が聞こえなくなっていたことに気付いて顔を上げると、壁時計の針は六時を回っていた。窓がすっかり茜色に染まっている。夏至を目前に控えて随分と日が長くなつてきているようだ。

ぼくは大きく伸びをすると、卒業生が置いていった古いコーヒーマーカーの電源を入れた。溶けたはんだの臭いが充満する部室でコーヒの香りを楽しむことは難しいが、それでも作業後の一杯はたとえようがなく魅力的だと思う。

タンクにたっぷり二杯分の水を注ぎ、コーヒができ

るのを待つ間に、工作机の上を整理する。そのうちに階下から足音が聞こえてきた。

「佐村君、いる？」

「どうぞ」

ぼくはドアを開けて、声の主——津島先輩を招き入れた。

「いつもうるさくしてごめんね」

「いつもうるさくないですよ。コーヒー、飲んでいきま
すよね？」

「ありがとう」

そう言つて、^{音楽室}異国から訪れたピアノ奏者は紙袋を差し出した。どういっきつかけで始まった習慣なのはかわからないが、津島先輩は毎週火曜日になると、こうやつてお茶請け持参で電工部に遊びに来てくれる。

「クッキーですか？」

「ううん、今日はマカロン。佐村君の口に合うと良いけれど」

柔らかく微笑んだ拍子にシトラスミントの黒髪がふさりと揺れた。顔見知りになった頃にはまだ耳たぶのあたりまでしかなかった髪が、この頃はセーラー服のカラーの中程まで伸びてきている。先輩のすらりとした長身と

思慮深そうな瓜実顔には、今の髪型の方が似合っている
とぼくは思う。

「マカロンに口を合わせますよ」

あまり独創的な言い回しじゃないなと思いつつ、ぼくは先輩を椅子に座らせた。

「ネズミさんの製作は捗ってますか？」

「亀の歩みです」

ぼくがコーヒーをカップに注ぐ間、津島先輩はいつもの
工作の進み具合を聞いてくる。こういう時にあまり専門
的な話をするヤツはモテないのだと、先代部長^眞は力説し
ていたが、津島先輩に対して下心含みの気遣いはしたく
ない。

「制御装置でてこずっているんですよ。FPGAを使え
ば簡単に実装できるんですが、どうせ作るならとことん
までアナログ電子回路に拘^{こだわ}りたくて」

ぼくが作っているのはモーターとバッテリーを積んだ
小さな四輪ロボットで、先輩がいうようにいわゆるマイ
クロマウスとよく似た外見をしている。もつとも、この
四輪車には複雑な迷路を探索するような能力はない。そ
の代わりにDVDサイズの円盤を回す機構と光センサが
取り付けられていて、完成した暁には光センサで円盤の

色を読み取って様々な動作をする予定だった。

「電子工作のことはよくわからないけれど、譲れない一線って大事だよね」

「コーヒー豆については妥協の産物ですけど」

「そう？ 私は嫌いじゃないけどな。佐村君のコーヒー」

微笑んで、先輩はマグカップを受け取った。

それからしばらくは静かな時間が続いた。

先輩がマグカップを口元に運び、ぼくがマカロンをかじる。感想は必要なかった。静かであることが、答えだった。

心地のよい静寂を破ったのは、ドタドタという激しい足音だった。

勢いよくドアが開き、一人の少女が姿を見せた。

「おーす！ 入るよっ」

糸川志紀は今日も元氣だった。

「つて、まーた和馬がミヤちゃん先輩とえろえろしてる
ー」

そしてまた、残念でもあった。

「えろえろはしていない」

「お邪魔してます。志紀ちゃんもマカロン食べる？」

「ありがたやありがたや。和馬さんよ、わたしにもコー

ヒーぷりーず」

そう言った時にはもう空いている椅子に腰を落ち着かせている。肉付きが良い割に小柄で妙にすばしい志紀はどこか猫めいたところがある。うつすら茶色がかったベリーショートは丸顔によく似合っているし、大きな瞳をなぞる二重まぶたに美術的考察を巡らす男子も少ないのだけれど、部室でのこのだらしなさだけはいかんともしがたいと思う。

「たまに來たと思えば良いご身分だな、幽霊部員」

「ほほほ。そんなことを言って良いのかね？ 我こそは電工部の救い主であるぞ」

志紀の言っていることはあながち嘘ではない。三月に先代部長を含む多くの部員が卒業したことで、電工部は定員割れによる廃部の危機に瀕していたのだ。新入生の獲得もまったくの不首尾に終わり、ぐったりと机に突っ伏しているぼくに横から「和馬の部活に入ってもいいよ」と声を掛けてきたのが志紀だったのだ。

続きは「非実在探偵小説研究会
10号」でお楽しみ下さい。

【ミステリ映画・オールタイムベストアンケート結果発表】

松井 和翠

【ミステリ映画・オールタイムベストアンケート】、通称“ATBミステリ映画”は、ツイッター上で二〇一四年二月四日から十二月十日までの七日間を投票期間として開催しました。総勢二三七名の方々から投票をいただき、投票された作品数は七九六作品に上りました。

今回は、この紙上を借りて、これまでATBに協力していただいた方々に【ミステリ映画・オールタイムベストアンケート結果発表】をお送りし、その恩返しとさせていただきますと思います。また、以下のATBに関する文責はすべて筆者・松井和翠にあることを、初めに言い添えておきます。

【ミステリ映画オールタイムベストアンケート実施要項】

- ①投票者一名が投票できるのは最大一〇作品までとする。
- ②順位により一位が一〇点、二位が九点…一〇位が一点と点数をカウントする。
- ③順位をつけず順位不同で投票する場合の点数は一律五・五点となる。また、投票作品が一〇作品未満の場合も同様に五・五点となる。
- ⑤対象は公開された全てのミステリ映画とし、邦画・洋画の種別は問わない。また「ミステリ」「ミステリ映画」の定義は個々人の判断に一任した。

ミステリ映画 オールタイムベスト10

順	作品名	作者	得点	票
1	情婦 1957年(米)/出演：チャールズ・ロートン他	ヒリー・ ワイルダー	293.5	51
2	セブン 1995年(米)/出演：ブラッド・ピット他	デヴィッド・ フィンチャー	206.0	36
3	ユージュアル・サスペクツ 1995年(米)/出演：ガブリエル・バーン他	ブライアン・ シンガー	201.0	37
4	羊たちの沈黙 1991年(米)/出演：ジョディ・フォスター他	ジョナサン・ デミ	195.0	33
5	サスペリアPART 2 1975年(伊)/出演：デヴィッド・ヘミングス他	ダリオ・ アルジエント	177.5	29
6	めまい 1958年(米)/出演：ジェームズ・ステュアート他	アルフレッド・ ヒッチコック	176.0	31
7	殺人の追憶 2003年(韓)/出演：ソン・ガンホ他	ボン・ ジュノ	163.5	30
8	オリエント急行殺人事件 1974年(英)/アルバート・フィニー他	シドニー・ ルメット	158.5	26
9	犬神家の一族 1976年(日)/出演：石坂浩二他	市川崑	157.0	26
10	十二人の怒れる男 1957年(米)出演：ノーマン・フェル他	シドニー・ ルメット	152.0	25



非実在探偵小説研究会～Airmys～10号

発行日 2015年11月23日
発行 エアミステリ研究会
連絡先 airmysdj@gmail.com
<http://www43.atwiki.jp/airmys-dj/>
価格 950円
印刷所 株式会社ポプルス

Special Thanks

編集作業をお手伝いして下さったエアミス研有志メンバー

©2015 エアミステリ研究会 作品の著作権は各著作者に帰属しています